PRESS RELEASE

HOSHINO MICHIO'S JOURNEY

2018.7.14 sat – 9.30 sun

没後20年
特別展

星野道夫の旅

開館時間：[7・8月]10:00–18:00 [9月]10:00–17:00 ＊ご入館は閉館の30分前まで　休館日：水曜日（8月15日は開館）
入館料：大人800（700）円、高・大学生400（300）円、中学生以下無料 ＊（　）内は20名様以上の団体料金
主催：IZU PHOTO MUSEUM、朝日新聞社　特別協力：星野道夫事務所
協力：富士フイルムイメージングシステムズ株式会社　後援：静岡県教育委員会、長泉町教育委員会

上：白夜の北極海にクジラを追う　下：ザトウクジラのブリーチング　撮影：星野道夫　© Naoko Hoshino

IZU PHOTO | MUSEUM

HOSHINO MICHIO'S JOURNEY

没後20年
特別展

星野道夫の旅

「目に見えるものに価値を置く社会と、
見えないものに価値を置くことができる社会の違いをぼくは思った。
そしてたまらなく後者の思想に魅かれるのだった。
夜の闇の中で、姿の見えぬ生命の気配が、より根源的であるように。」

『森と氷河と鯨』（世界文化社）より

展覧会概要

1978年にアラスカに移り住み、20年近くにわたり極北紀行を重ねた星野道夫（1952-1996）。大自然が見せる多様な姿をカメラで追い続けると同時に、言葉により思索を深めた星野が残した仕事は、今日まで多くの人々を魅了し、変遷する自然と文明の関係を問いかけ、現代に生きるとは何かを改めて考えさせます。
本展では、ありのままの自然の姿が写し取られた「マスターピース」から、過酷な環境下で脈々と続く「生命のつながり」、極北に暮らす人々の精神性が見出された「神話の世界」まで、星野の写真と言葉による物語の世界が展示空間に立ち現れます。加えて、現地の取材で使用されたカメラやカヤック、貴重な記録映像や自筆原稿などの資料を展示し、星野が伝えたかった極北の世界へとみなさまを誘います。

クジラの骨の遺跡とベーリング海に浮かぶ半月（ロシア、チュコト半島）

作家略歴

1952年千葉県市川市生まれ。1976年慶應義塾大学経済学部卒業。動物写真の第一人者田中光常氏の助手を2年間務める。1978年米国・アラスカ大学野生動物管理学部入学。1986年アニマ賞受賞。1990年木村伊兵衛写真賞受賞。1996年ロシア・カムチャツカ半島での取材中ヒグマの事故により急逝。1999年日本写真協会賞特別賞受賞。1980年代より『National Geographic』や『アニマ』、『週刊朝日』など国内外の雑誌に写真や紀行文をアラスカより寄稿。さらに『イニュニック・生命』（1993年発表）、『旅をする木』（1994）、『森と氷河と鯨』（1996）など数々の書籍を上梓。没後も現在まで展覧会開催や書籍刊行が続いている。

1952年　千葉県市川市に生まれる

1968年　慶應義塾高等学校入学

1969年　移民船アルゼンチナ丸でロサンゼルスへ
約2ヶ月間、アメリカを一人旅する

1971年　慶應義塾大学経済学部入学、探検部に入る

1973年　アラスカ・シシュマレフ村でエスキモーの家族と一夏を過ごす

1976年　慶應義塾大学を卒業
動物写真の第一人者・田中光常氏の助手をはじめる（以後2年間務める）

1978年　アラスカ大学受験のため、シアトルの英語学校に通う
アラスカ大学野生動物管理学部入学（4年間学ぶ）

1986年　第3回アニマ賞受賞（「グリズリー」）

1990年　第15回木村伊兵衛写真賞受賞（『週刊朝日』連載）

1993年　結婚

1996年　ロシア・カムチャツカ半島クリル湖へテレビ番組の取材に同行
8月8日、ヒグマの事故により急逝

1999年　1999年度日本写真協会賞・特別賞受賞

カリブーの季節移動を待つ星野道夫

「大学の卒業が近づき、私は自分の一生の仕事を決めなければならなかった。何か自然に関わる仕事がしたい。もう一度アラスカに戻りたい……。それだけがはっきりしていた。初めて写真というものを意識した。アラスカの自然をテーマに、写真を通して自分の考えていることを表現していけるだろうか。そのとき初めて、自然写真というものとの関わりが始まったと思う。つまり私の場合、写真がずっと後で、まず自然があった。」

『FIELD & STREAM』（ソニーマガジンズ）より

展覧会の見どころ

写真と言葉によりつくりあげられる星野の世界観を提示

極北のありのままの自然の姿をカメラで追いかけた星野。写真に加えて、紀行の途上で重ねられた思索から数々の言葉が紡がれました。本展では、星野の著作物から抜粋された言葉を写真に併置し、立ち上がる星野の世界観を堪能いただけます。

最後に伝えたかった精神的な世界を紹介

20年近くにわたる紀行で出会った極北の原住民との交流を経て、現代社会では忘れ去られつつある価値観を見出した星野は、彼らの暮らしを精力的に取材しました。極北の自然を超え人間の精神性をも捉える、星野の鋭敏な感性と広い視野が浮かび上がります。

星野作品が生まれた背景を多様な資料から紹介

当時取材に携行されたカメラ、移動に使用されたカヤック、本人に密着したドキュメンタリー映像、自筆原稿や掲載雑誌などを通して、極北で生まれた創作の背景や当時大きく発展した自然写真分野での星野の活躍に迫ります。

「ぼくたちが毎日を生きている同じ瞬間、
もうひとつの時間が、確実に、ゆったりと流れている。
日々の暮らしの中で、心の片隅にそのことを意識できるかどうか、
それは、天と地の差ほど大きい。」

『森と氷河と鯨』（世界文化社）より

ザトウクジラのブリーチング

「アラスカで出会った多くの人々が、今、再生しようとしている。
世紀末を迎え、次の時代が見えてこない今、その淡い光は、かすかな希望である。
そしてさまざまな人間の物語があるからこそ、美しいアラスカの自然は、より深い輝きを満ちてくる。
人はいつも、それぞれの光を捜し求める、長い旅の途上なのだ。」

『ノーザンライツ』（新潮社）より

展示構成

●アラスカとの出会い

アラスカを目指すきっかけとなった写真集『Alaska』には、星野の目をとらえて離さないある村の空撮写真が掲載されていました。本展では、その写真集とシシュマレフ村村長に宛てて送られた手紙の実物を展示し、星野道夫の旅の始まりを知らせます。

●マスターピース

およそ20年間におよぶ紀行を通して、極北を撮影した星野。彼の地のありのままの自然の姿が写し取られたマスターピースを大判のカラープリントにより一望いただけます。

夜空に舞うオーロラと満月

●生命のつながり

本章では、ザトウクジラ、カリブー、グリズリーなどを取り上げ、極北の過酷な環境のもとで生き抜く生命の躍動や一連のつながりを視覚的に示唆し、生きることそのものを問いかけます。

山岳地帯に生きるドールシープの親子

●神話の世界

現地の人々との交流を経た星野は、厳しい自然のなかで生かされてきた人間の社会に貫かれる思想に強い関心を寄せ、晩年取材を重ねました。極北に広く伝わるワタリガラスの伝説やエスキモーのクジラ漁、ベーリング海を渡った先のシベリアを中心に展示いたします。

白夜の北極海にクジラを追う

●星野道夫の部屋

極北での自然写真家としての仕事を現存する資料からご紹介します。取材に携行されたカメラやブーツ、アラスカでの移動に使用されたカヤック、取材の様子が記録されたドキュメンタリー映像、取材時のセルフポートレートなどを展示いたします。さらに、自筆原稿や掲載雑誌を展示し、写真技術の進化に伴い大きく発展した自然写真分野における星野の当時の活躍に迫ります。

HOSHINO MICHIO'S JOURNEY

没後20年
特別展

星野道夫の旅

2018年7月14日(土)－9月30日(日)

開館時間：[7･8月] 10:00－18:00 [9月] 10:00－17:00 ＊ご入館は閉館の30分前まで　休館日：水曜日(8月15日は開館)
入館料：大人 800(700)円、高・大学生 400(300)円、中学生以下無料 ＊( )内は20名様以上の団体料金
主催：IZU PHOTO MUSEUM、朝日新聞社　特別協力：星野道夫事務所
協力：富士フイルムイメージングシステムズ株式会社　後援：静岡県教育委員会、長泉町教育委員会

関連イベント

●オープニングトーク

星野直子（星野道夫事務所代表）× 松家仁之（小説家・編集者）
日時：2018年7月14日（土） 15:00－16:30
会場：クレマチスの丘ホール
料金：当日有効の入館券のみ必要です。
参加方法：お電話にてお申込ください。
TEL：055-989-8780（水曜休）

本プロジェクトの中心的役割を担う両氏に特別ゲストとしてご登壇いただきます。展覧会の舞台裏から、当時の星野の撮影や執筆についてのエピソード、写真と言葉に傾けられた情熱や託されたメッセージまで、お話をお伺いします。

●学芸員によるギャラリートーク

日時：7月28日（土）、8月11日（土）・25日（土）、
9月8日（土）・22日（土） 各14:15より（約30分間）
会場：IZU PHOTO MUSEUM
料金：当日有効の入館券のみ必要です。
申込不要（当日美術館受付カウンター前にお集まりください。）

●親子向けギャラリートーク

日時：7月30日（月）・31日（火） 各11:15、13:45より（約30分間）
会場：IZU PHOTO MUSEUM
料金：当日有効の入館券のみ必要です。（中学生以下無料）
申込不要（当日美術館受付カウンター前にお集まりください。）

クレマチスの丘展覧会情報

●ヴァンジ彫刻庭園美術館

「須田悦弘　ミテクレマチス」
4月22日（日）－10月30日（火）

●ベルナール・ビュフェ美術館

「没後50年　藤田嗣治　本のしごと　文字を装う絵の世界」
前期：6月23日（土）－8月21日（火）
後期：8月23日（木）－10月30日（火）

アクセス

●お車の場合

東京方面より：東名・裾野I.C.よりR246経由、沼津方面へ10km
名古屋方面より：新東名・長泉沼津I.C.または東名・沼津I.C.より伊豆縦貫道（東駿河湾環状道路／無料区間）へ、長泉I.C.出口R246右折、5km

●電車の場合

JR東海道線「三島駅」下車、北口（新幹線口）／3番乗り場発、
無料シャトルバスあり

無料シャトルバス [三島駅↔クレマチスの丘] 時刻表（所要時間約25分）

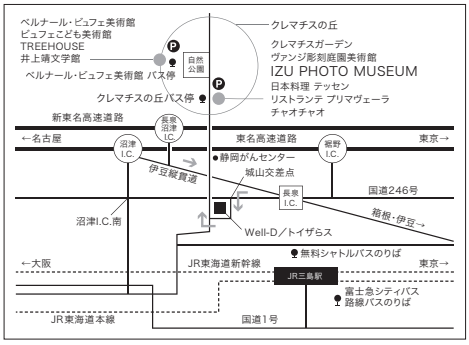
行き [三島駅] 北口（新幹線口）発

時		9	10	11	12	13	14	15	16	17
分	平日	40	40	40		00	00	00	00	00
	土･日･祝日	40	40	40		40	40	40	40	

帰り [クレマチスガーデン] 発

時		10	11	12	13	14	15	16	17
分	平日	15	15	15	35	35	35	35	20*
	土･日･祝日	15	15		15	15	15	15	20

*は御殿場線「裾野駅」経由のため所要時間は約45分です。



お問い合わせ

展覧会担当：國田（kunita@clematis-no-oka.co.jp）
広報担当：岸（kishi@clematis-no-oka.co.jp）

〒411-0931 静岡県長泉町東野クレマチスの丘347-1
Tel. 055-989-8780　Fax. 055-989-8783　www.izuphoto-museum.jp

IZU PHOTO | MUSEUM

広報用画像

本プレスリリース内でご紹介しましたイメージについて画像貸出（デジタルデータのみ）をしております。
ご希望の場合は、画像番号にレ点をお入れいただき、必要事項をご記入の上 FAXまたはEメールにてお申し込みください。

お願い：
1. 画像は本展紹介以外の目的で使用しないでください。
2. 画像データを第三者に渡すことはできません。使用後、データは消去してください。
3. 画像のトリミングや文字のせはできません。
4. 画像を掲載される際には、展覧会名、会期、会場など本展覧会の基本情報とともに、キャプションとクレジットを表記願います。
クレジットとして「撮影：星野道夫」を必ず記載してください。なお、「©」表記の場合は「©Naoko Hoshino」と記載してください。
5. 掲載、放送の際には事前確認のため、ゲラ、掲載紙（誌）または映像のご提供をお願いいたします。
6. 掲載紙（誌）は下記広報担当宛に1部ご寄贈ください。Webサイトの場合は、掲載時にURLをお知らせください。

①

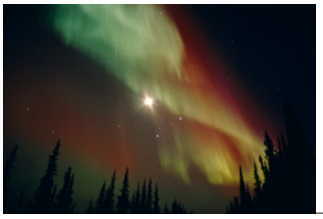
ザトウクジラのブリーチング

②

白夜の北極海にクジラを追う

③

山岳地帯に生きるドールシープの親子



④

夜空に舞うオーロラと満月

⑤

クジラの骨の遺跡とベーリング海に浮かぶ半月
（ロシア、チュコト半島）

⑥

カリブーの季節移動を待つ星野道夫

撮影：星野道夫　© Naoko Hoshino

■ 貴媒体名

■ 掲載号　　■ 発売日／放映日　　年　　月　　日

■ 貴社名　　■ ご担当者様

■ TEL　　■ FAX

■ E-MAIL　　@

■ ご住所

■ 資料お届け期限　　年　　月　　日 までにご希望

IZU PHOTO MUSEUM

広報担当：岸　宛

E-mail: kishi@clematis-no-oka.co.jp　FAX: 055-989-8783

〒411-0931 静岡県長泉町東野クレマチスの丘 347-1　TEL.055-989-8780